

第54回造本装幀コンクール 受賞者インタビュー

日本印刷産業連合会会長賞：

『ぱらぱら きせかえ べんとう』

出版社

中央出版 アノニマ・スタジオ



©佐藤祐介

●御社の活動について教えてください。

アノニマ・スタジオは、2004年にスタートし、今年で17年目を迎える中央出版のレーベルです。「ごはんと暮らし」をテーマに、食べることや暮らすこと、子育てや家族にまつわること、仕事やいろいろな働き方、ものづくり、旅……など、くらしを少し豊かにしてくれる生活書を中心に本づくりを行っています。アノニマ・スタジオの名前の由来となっている「アノニマス」には、誰でもない、私たち一人ひとりの、という意味があります。また、すべての書籍には、私たちが目指す本づくりを表した言葉を記しています。

アノニマ・スタジオは、
風や光のささやきに耳をすまし、
暮らしの中の小さな発見を大切にひろい集め、
日々ささやかなよろこびを見つける人と一緒に
本を作ってゆくスタジオです。
遠くに住む友人から届いた手紙のように、
何度も手にとって読みかえしたくなる本、
その本があるだけで、
自分の部屋があたたかく輝いて思えるような本を。

●今回の作品のような造本にされたのは、どういった経緯があったのでしょうか。

料理家・野口真紀さんがイタリアの絵本（リング綴りで3分割の動物のきせかえができるしかけ絵本）をご覧になり、「これでお弁当の本を作ったら便利！」とひらめき、造本にこだわった絵本を出版しているということで小社にご相談をいただきました。このような仕様は実現可能か、流通は可能か、印刷所と試作を重ねながら形になったのが『ぱらぱら きせかえ べんとう』です。印刷会社と著者、デザイナー、カメラマン、編集者、版元が一丸となって作った本です。

●受賞の知らせの感想、周囲の反応など、いかがでしたでしょうか。

まさに造本にこだわった本だったので、評価を

していただけてとても嬉しかったです。

●作品制作において、こだわった点、苦勞した点、制作についてのエピソードがあれば教えてください。

この本に適切な設計にするために試作を重ねました。広く流通する書籍でのリング綴じ製本ははじめてだったので、リングの太さや巻き数の検討をしました。がっしりするよりも軽やかな印象にしたかったので、丸背でリングに添うような背にしたこと、表紙の芯ボールの厚さ、めくりやすさや強度の面から本文の厚紙についても検討を重ねました。何度も東見本やサンプルを確認し見積もりと試算を繰り返して、一般流通可能で、広く使っていただける「料理本」に仕上げました。

また、本文の写真撮影についても様々な工夫が。ひとつのお弁当を撮影して3分割すると単品のおかずが隣のおかずが映りこんでしまう可能性があるため、デザイナー立ち合いのもと、盛り付けにも注意しつつ、1種類ずつ配置を調整しながらカメラマンに撮影をしてもらいました。撮影前にも想定できる問題点を話し合い、デザイン面でも試作を重ねて作り上げた一冊です。

●一般の方は「造本」という言葉になじみがないかもしれませんが、「造本」の観点から、本を視る」ポイントがあったら教えてください。

アノニマ・スタジオでは一冊一冊、テーマと内容に合わせて造本を考えています。ひとつとして同じ内容のものがないように、まったく同じ造本もありません。なぜこのような印刷・加工をしているのか、この紙を選んだのか、開き具合は？製本の仕方は？といった視点で本を見てみると、本を開くのが一層楽しくなると思います。電子書籍は、タブレットの中に本棚があるので収納の場所も取らないし、持ち歩く際にもかさばりませんが、紙の本は、ページをめくる指先の感覚や表紙の手触り、その重みも含めて味わうことができます。一冊一冊の違いや個性を楽しんでいただけたらと思います。（了）

